

平成28年度

授業改善推進プラン

檜原村立檜原小学校

<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語学習に対して関心・意欲は高い。 ・個人差はあるが、「話す・聞く」力がまだ不十分である。 ・「書く」ことに苦手意識をもっている児童が多く、定着も十分ではない。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つけない力を定着させるためにも、関心・意欲をもてるような授業を引き続き行っていく。 ・国語学習を中心としながら、全教育活動で「話すこと・聞くこと」を大切にしていく。 ・言語や文章の組み立てについて知識・理解・技能を身に付け、継続的に「書く」指導を行っていく。
---	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力		具体的な授業改善策 (授業形態、習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第一学年	関心・意欲・態度	・読書を始め、国語への興味・関心は高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・主述をはっきりさせ、わかりやすく話す・書く、大事なことを意識しながら聞く指導の工夫。 ・登場人物の様子や気持ちを読み取ったり、想像を広げながら読んだりする力の育成を図った指導の工夫。 ・単元を通しての評価場面、評価方法などの評価計画の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理し、順序立てて話すこと、書くことを意識させる。 ・話し手の一番伝えたいことを意識しながら聞く力の育成を図る。 ・大事な言葉や挿絵を確実に押さえながら、正しく読み取る力を育成する。 言語活動の充実を図るための手立て ・考えのみを発表するのではなく、その思いや考えに至った理由についても伝え合うように意識させる。 ・一番伝えたいことを意識させる。 ・読み取ったことを表現する力を高めていくために、音読や意見交流の機会を意図的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にする。 ・発言や学習への取り組み状況の記録を定期的にとることにより、学習への意欲について評価する。 ・ノートやプリント、発言内容などから児童の学習状況を適切に把握・評価することで、次時の指導に生かす。 ・評価をもとに個別指導の充実を図る。
	話す・聞く能力	・分かりやすく伝える力や主述の関係や文と文のつながりに気をつけて書く力については、継続的な指導が必要である。			
	書く能力	・語や文のまとまりに気をつけて音読すること、大まかなあらすじを捉えながら読むことはほぼできる。			
	読む能力	・「は・を・へ」の助詞や長音・拗音などの表記の使い方の定着は、8割程度である。			
	言語についての知識・理解・技能				
第二学年	関心・意欲・態度	・言語活動、読書を含め国語への関心・意欲はとても高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲は高いが、理解度に大きな差があるので、全体指導と個別指導のバランスを考えて授業を組み立てる。 ・特別支援教室に通う児童のフォローが必要。担当教員との連携が必須。 ・楽しんで授業に参加していても、自己評価はあまり高くない。発言、ノートやワークシート、授業態度等様々なところから児童の頑張りや変容を見取る。ささいなことでも認め伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話型や受け応えの例を示しながら安心して話せる場を設定する。 ・行事に合わせて、構成を考えて書く活動を取り入れる。 ・あのね日記を活用して書くことの楽しさを味わわせ意欲を高める。 ・全体で言語活動を楽しみながら、個別指導で定着を図っていく。 言語活動の充実を図るための手立て ・あのね日記を活用して書くことの楽しさを味わわせ意欲を高める。 ・全体で言語活動を楽しみながら、個別指導で定着を図っていく。 ・学期に1回以上お互いに読み聞かせをし合う活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にする。 ・発言や学習への取り組み状況の記録を定期的にとることにより、学習への意欲について評価する。 ・ノートやワークシート、発言内容などから児童の学習状況を適切に把握・評価することで、次時の指導に生かす。 ・評価をもとに個別指導の充実を図る。
	話す・聞く能力	・順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに最後まで聞いたりする力は全体的にまだ乏しく、継続的な指導が必要である。			
	書く能力	・順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書くことも苦手である。			
	読む能力	・想像を広げて本や文章を読むことは好きなので伸ばしていきたい。			
	言語についての知識・理解・技能	・言語理解については個人差が大きい。			
第三学年	関心・意欲・態度	・読書に集中している様子が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の機会が少ないため、読書する機会を増やす。 ・要点を聞く意識を高める指導を行う。 ・語いを増やす指導を行う。 ・言葉を基に考える(読み取り)の指導を行う。 ・漢字の書き取りの指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことの要点をアウトプットする活動を行う。 ・伝えたいことを短く伝える活動を行う。 ・ホワイトボード等を使い考えを明確化させる。 ・漢字の書き取りの練習の工夫をさせる。 ・国語辞典を日常的に使用させる。 言語活動の充実を図るための手立て ・答えを述べる時、たどりつくまでの過程を言わせる。 ・それぞれの工夫した記述を見合わせる。 ・資料を用いて説明する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がとった行動への価値付けを明確にする。 ・学級で事例として取り上げて共有する。 ・記述はコピーして配り、共有する。 ・自分の成長が自己評価できるように作成物の保存をし、定期的に見返させる。
	話す・聞く能力	・長い文で話す傾向がある。			
	書く能力	・意識させて聞かせないと、要点を聞き取れないことが多い。			
	読む能力	・段落を意識して書くことが少しずつできている。			
	言語についての知識・理解・技能	・叙述をもとに考える習慣があまり定着していない。			

第四学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習には意欲的に臨み、自主的な発言も多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを児童が十分理解できるような工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元のねらいをより明確化し、児童がねらいを意識して授業に臨めるように発問等を工夫する。 ・辞典を多用し、語いの習得を促すと共に、文章構成や組み立て方等についての指導時間を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに即した評価計画の策定に取り組む。 ・授業記録や作文等のファイリングを継続的に行い、伸びた点や意識して取り組んだ点への評価場面を増やす。 ・学習のまとめの一つとして、振り返る時間を設定し、学べたことについて自己評価できるようにしていく。
	話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を正しく聞き取ったり、文章の構成を理解して読み取ったりする点では、全体的に課題がある。また、個人差も大きく影響している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成の組み立て方や、言葉の意味や語いの習得について、どの単元の学習においてもふれられるようにしていく。 	<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を取り入れ、様々な文章を読む機会を増やすとともに、感想の交流などに取り組む。 ・日常的に日記を書き、文章を書くこと自体に慣れさせていくと同時に、組み立て等の指導を行っていく。 	
	書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことを整理して分かりやすい文章を書く指導をしているが、日常的に文章を書く習慣がないため、定着に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の書き方について、基本の形を指導し、徐々に自分なりの表現に結び付けていけるようにしていく。 		
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習への意欲は高くなってきたが、語いの習得に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の項目に関して継続した評価を行っていく。 		
	言語についての知識・理解・技能				
第五学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際、誤字脱字が目立ち、漢字も使えていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導の中で、学習課題が十分に理解できていない児童への支援が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導に力を入れ、丁寧に正しく書くことを習慣づける。 ・文章を書く際に、自分自身で推敲することに加え、お互いに読み合い、感想を伝える等の活動を入れ、客観的に文章を読む力をつけさせる。 ・常用漢字の反復学習を行う。
	話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作文では、主語と述語のつながりが理解できていない様子が見受けられる。よって、一文が150字ほどになることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲的に取り組める教材や教具を準備していく。 ・児童ができるようになったと感じられる授業の展開。 	<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書や音読をする活動を通して、良い文章に触れる機会を増やすことで、文章を構成する力を育てる。 ・作文や文章を書く機会を増やしていくことで、自分でも文章を推敲する力を身に付けさせる。 	
	書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から内容や考えを読み取ることに關しては、よくできている。 			
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・音読がとても上手な児童が多いが、文中の漢字が読めないことも多い。 			
	言語についての知識・理解・技能				
第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだり書いたりする活動にも意欲的に取り組めるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体として国語の学力が低く、基礎基本を含めた指導の工夫を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文の要約や抜き出しなど、書く活動の機会を多く取り入れる。 ・国語事典を用いる習慣作りを進め、語彙の定着と向上を図る。
	話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習ではテストへ向けて予習をしたり、間違えた漢字を見直したりできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文指導では個別に対応することできめ細かい指導を行っているが、対応に時間がかかるのが課題である。 	<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書の時間を設定し、活字にふれる習慣作りに取り組む。 ・名文の書き取りや音読を行い、日本語の響きや美しさを感じられるようにする。 	
	書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作文では主述の関係を間違えたりすることが多く、基本的な文章構造への理解が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関しては学習単元のねらいに応じた評価計画の策定を行っていく。 		
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり、聞いたりする力に関しては個人差が大きい。 			
	言語についての知識・理解・技能				

各教科における児童の実態 ・学習内容に関しては興味・関心をもっており、意欲的である。 ・学ぶことの目的意識や社会的事象が起こる背景・意味についての思考が浅い。	自己の授業改善の重点 ・調べたことをもとに考え、表現する(まとめる、交流するなど)力をつける指導を行う。 また、表現することを通して、児童間で学び合いの場を作っていく。
---	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現		具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第三学年	関心・意欲・態度	・施設でインタビューするとき、積極的な姿勢で臨むことができた。	・聞き取りしながらメモをするための仕方の指導を行う。 ・目的意識をもったインタビューの指導を行う。 ・見出し、レイアウト、強調など調べたことのまとめ方の指導を行う。	・何をメモとして残しておくか考えさせる指導を行う。 ・施設見学の目的を明確にして質問を考えさせる。 ・目的を達成するための目標を一人ずつもたせる指導を行う。 ・以前作った資料を見返し、まとめ方を広げさせる指導を行う。	・施設見学の直後に、メモの取り方やインタビューの仕方についての振り返りを行う。 ・取り組んだ後、何を学ぶことができたかを挙げさせ、共有する。 掲示物として目に見える形で残す。
	思考・判断・表現	・子供達だけで目的からそれないように質問し続けることがあまりできていない。			
第四学年	関心・意欲・態度	・新しく学習する内容に関して、興味や関心をもって、積極的に取り組める児童が多い。	・単元の導入時に、社会的事象について考えたり予測したりできる学習の流れを展開する。 ・知識としておさえる部分と、そこから発展的に考える部分とを明確にした指導計画を立てる。 ・まとめや振り返りの時間を設定し、自己評価をさせながら変容を促していく必要がある。	・写真や映像等の視覚資料を用いて導入を行い、児童に身近なものとする事で、学習する意識をもたせていく。 ・学習を通して学んだ事が、どのように生活に生きているのか、具体的な事例を授業の中で扱っていく。	・ノートの記録やワークシートなどを随時確認し、取り組み方や理解などの把握に努め、評価していく。 ・新聞などの作品では、相互評価などの取り入れながら、自分の学習の経過を意識させ、自己評価する力を伸ばす。
	思考・判断・表現	・社会的な事象について、その背景にあるものや、意味を考えることを苦手としている。			
第五学年	関心・意欲・態度	・資料から情報を幅広く読み取れるようになってきている。	・学習活動のめあてと、まとめ(評価)のつながりを大切に授業を展開すること。 ・学習の課題が十分に理解できていない児童への支援が必要。 ・学習活動の中で使用する資料の工夫をしていくことが重要である。	・学習の中で、情報の読み取りに加えて、自分の考えをもたせること、その考えを交流し合うことで深めていくことを行う。 ・児童の興味や疑問と関係した学習課題や学習問題を設定することで、児童が社会的事象に対しての考えをもちやすくなる。	・学習課題に対してわかったことを、まとめたり振り返ったりする活動を充実させる。 ・個人で取り組む、グループで話し合う、全体で話し合う等、状況に応じて使い分け、授業の充実を図る。 ・可能な限り、机間指導やT2の活用等で個別指導を図る。
	思考・判断・表現	・与えられた学習課題に意欲的に取り組む姿が見受けられる。			
第五学年	関心・意欲・態度	・社会的事象の原因や理由について、考えたり想像したりしながら、自分の意見をもつ力を伸ばしていく必要がある。			
	思考・判断・表現				

第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の出来事や人物に対する興味や関心が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単に知識だけでなく、資料や視覚的な教材を用いて、知識や理解が深まるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を活用したり調べ学習の時間を多くとったりして、児童が主体的に考え、まとめをするような授業改善に取り組む。 ・調べたことやまとめたことを発表する場を設定し、児童相互が学び合う活動の場を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位時間ごとにワークシートやノートの内容をチェックし、学習への取り組みや理解の様子を適切に把握し、評価を行う。 ・毎時の評価をもとに、個別指導や全体指導の計画を立て、更に評価に取り入れていく。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事や人物などの名前や知識を正確に覚えることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事の因果関係について考えさせることで、思考力の向上と表現力の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことやまとめたことを発表を通して、言語的な交流の機会を多く設定していく。 	
	観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から必要な情報を引き出すことはできるが、資料をもとに考えて書き表すことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りとまとめを行う時間をとり、それをもとに適切な評価を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考え、発言したくなるような発問の工夫を行う。 	
	社会的事象についての知識・理解			<p>言語活動の充実を図るための手立て</p>	

<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変意欲的で、素直に真面目に学習に取り組む。分からないところがあった時に聞きに来る児童が増えてきた。 ・互いに顔を見て発言し合うなど、学び合いが自然にできるようになってきている ・全体的に算数的発想力や算数的な日常経験・算数的活動が乏しい。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを重視し、児童の積極的、自立的な学びを大切にします。 ・多様な算数的活動、アクティブラーニングを取り入れるように心がける。 ・基礎的基本的な学力を付ける指導を中心に、既習事項を活用した算数的思考力、表現力を付けるような指導を心がける。
---	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
	関心・意欲・態度	数学的な考え方		具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第一学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組んでいる。 ・繰り返し取り組むことで、計算の技能は定着しつつある。見直しの習慣を定着させることが必要である。 ・文章題の問題を読み取る力を高めていく必要がある。 	<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着を図る指導の工夫。 ・数学的な考え方を高める指導の工夫。 ・単元を通しての評価場面、評価方法などの評価計画の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作活動を通して、基礎的・基本的な計算方法の理解を定着させる。また、繰り返し取り組むことで、技能の確実な習得を図る。 ・文章題の問題場面をしっかりと捉えるために、お話の場面を思い描いたり、ブロック操作をしたりして、演算決定ができるようにする。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたやり方を図に表したり、具体物を操作しながら説明したりすることで、思考を深め、表現力を育てていく。 ・やり方を説明するだけでなく、何を根拠に考えたのか、どの既習事項を活用したのかを伝える機会を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にする。 ・学習への取り組み状況や発言内容などの記録を定期的にとり、学習への意欲について評価する。 ・ノートや小テストなどにより、児童の学習状況を適切に把握・評価することで、次時の指導に生かす。 ・評価をもとに個別指導の充実を図る。
第二学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に算数への関心・意欲はとも高い。 ・数量や図形についての感覚が少しずつ豊かになり、答えにたどり着くまでの道筋を楽しめるようになった。表現力は継続的な指導が必要である。 ・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得には時間を要するが、一度習得したものは楽しんで活用することができる。 	<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲は高いが、理解・定着までに大きな差があるので、全体指導と個別指導のバランスを考えて授業を組み立てる。 ・特別支援教室に通う児童のフォローが必要。担当教員との連携が必須。 ・図、ブロック、言葉、式等様々な方法で説明する練習は継続的に行わないと定着していかない。 ・文章題の解き方はパターン化しなければなかなか入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業を展開し、ノートに自分の考えを書いたり、全体で考えを交流したりして児童が思考する時間を確保する。また、分かりやすくノートにまとめさせたり、発表させたりして、表現力も高めていく。 ・毎日継続することで、基礎基本の定着もしっかりと図っていく。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導を充実させ、繰り返し経験させていく。 ・自分の考えをノートに書き、ホワイトボードにまとめて発表したり、友達の考えを理解したり説明したりする機会をたくさん取り入れる。 ・文章題の解き方をパターン化して繰り返し練習し、言葉に慣れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にする。 ・発言や学習への取り組み状況の記録を定期的にとることにより、学習への意欲について評価する。 ・ノートやワークシート、発言内容などから児童の学習状況を適切に把握・評価することで、次時の指導に生かす。 ・評価をもとに個別指導の充実を図る。
第三学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく気持ちよく授業に臨んでいる。積極的に発言し説明活動も喜んで行う。 	<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数的感覚がまだ充分とは言えず、既習事項を応用・発展して解決に結びつけることが苦手な児童が多い。 ・計算などにケアレスミスが多く、スピードが十分でない児童もいるが、家庭での学習にも積極的に取り組む。 ・下学年の内容は概ね理解し自分のものとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差、ニーズに応じた指導を心がけ基礎的基本的な学力をつけることが課題である。 ・個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。 ・算数的活動を重視し、算数的感覚、算数的な思考力、表現力を育成することが課題である。 ・算数的活動(具体的操作・話し合い活動・説明活動・表現活動等)を多く取り入れ、個別の振り返り活動も大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい板書計画、具体的・感覚的に理解できアクティブラーニングを取り入れた教材準備を行う。 ・関連する既習事項等の掲示を心がける。 ・プレテスト・TBドリル等を利用して個人の学習状況を把握し、習熟に合わせた多様なプリント・教材を用意する。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び方を学べるような授業の組み立てを工夫する。 ・話型の提示や、説明・話し合い活動の方法を指導することによって、児童同士の学び合いを意識させるようにする。 ・算数的知的好奇心を揺さぶるような導入・教材・指導を心がける。 ・ICT等の活用を図り、説明活動での利用を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレテストや東京ベーシックドリルなどを活用し、個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。 ・担任との連携を常に意識し、情報交換や報告連絡相談を怠らないようにする。 ・学期末には、一人一人の見取りを担当に伝える。

第四学年	関心・意欲・態度	・まじめに授業に取り組み、指導(アドバイス)したことを素直に実践しようとしている。	・個人差、ニーズに応じた指導を心がけ基礎的基本的学力をつけることが課題である。	・分かりやすい板書計画、具体的・感覚的に理解できアクティブラーニングを取り入れた教材準備を行う。	・プレテストや東京ベーシックドリルなどを活用し、個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。
	数学的な考え方	・数学的感覚が育っていて既習事項を問題解決的に利用できる児童とそうでない児童と大きく分かれる。	・個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。	・関連する既習事項等の掲示を心がける。	・担任との連携を常に意識し、情報交換や報告連絡相談を怠らないようにする。
	数量や図形についての技能	・計算などの技能は、ケアレスミスやスピードに課題はあるものの概ね理解できている。	・算数的活動を重視し、算数的感覚、数学的な思考力、表現力を育成することが課題である。	・プレテスト・TBドリル等を利用して個人の学習状況を把握し、習熟に合わせた多様なプリント・教材を用意する。	・学期末には、一人一人の見取りを担当に伝える。
	数量や図形についての知識・理解	・下学年の学習内容、算数的感覚が十分ではない児童も見られる。	・算数的活動(具体的操作・話し合い活動・説明活動・表現活動等)を多く取り入れ、個別の振り返り活動も大切にする。	言語活動の充実を図るための手立て ・集団で学習する場面と個別で取り混ぜる場面とを意図的に仕組んで、説明活動、表現活動を取り入れる。 ・紙に表現させたり作品作りをさせたりし、活動の足跡を 掲示・展示する。互いの活動を見合うことで意欲を刺激する	
第五学年	関心・意欲・態度	・授業には明るく気持ちよく大変意欲的で発言も活発、家庭でも自主的にプリント等に取り組んでくる児童が多い。	・個人差、ニーズに応じた指導を心がけ基礎的基本的学力をつけることが課題である。	・既習事項を活用して問題解決をはかったり、根拠をはっきりさせて説明し合わせたりすることに留意するとともに、正確さを意識づける。	・プレテストや東京ベーシックドリルなどを活用し、個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。
	数学的な考え方	・問題の読み取りが苦手な児童が多く、情報の取り出しや活用に課題がある。	・個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。	・数直線や図、表などを常に意識させながら、問題にあたらせる。	・担任との連携を常に意識し、情報交換や報告連絡相談を怠らないようにする。
	数量や図形についての技能	・算数的感覚は身に付いているがケアレスミスが多く、計算練習の量が十分でないため計算に時間がかかる児童が多い。	・算数的活動を重視し、算数的感覚、数学的な思考力、表現力を育成することが課題である。	・プレテスト・TBドリル等を利用して個人の学習状況を把握し、習熟に合わせた多様なプリント・教材を用意する。	・学期末には、一人一人の見取りを担当に伝える。
	数量や図形についての知識・理解	・下学年の知識が十分に身に付いていないため、新しい知識の獲得に時間がかかる。	・算数的活動(具体的操作・話し合い活動・説明活動・表現活動等)を多く取り入れ、個別の振り返り活動も大切にする。	言語活動の充実を図るための手立て ・集団で学習する場面と個別で取り混ぜる場面とを意図的に仕組んで、説明活動、表現活動を取り入れる。 ・問題解決に必要な情報を正確に取り出すことを意識づけるとともに、聞かれていることを正確に把握させるようにする。 ・紙に表現させたり作品作りをさせたりし、活動の足跡を 掲示・展示する。互いの活動を見合うことで意欲を刺激する。	
第六学年	関心・意欲・態度	・聞く力が育ち、自主的に授業に向かう姿が多く見られるようになった。	・個人差、ニーズに応じた指導を心がけ基礎的基本的学力をつけることが課題である。	・既習事項に関する内容や教材等を掲示し、既習事項を常に復習・確認しながら、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	・プレテストや東京ベーシックドリルなどを活用し、個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。
	数学的な考え方	・既習事項を活かし、より難解なレベルの問題を解くことを楽しむ児童も見られる。	・個々の児童の学習状況やつまずきを見取り、必要なスキルの把握に努める。	・数直線や図、表などを常に意識させながら、問題にあたらせる。	・担任との連携を常に意識し、情報交換や報告連絡相談を怠らないようにする。
	数量や図形についての技能	・算数的感覚は身に付いているが、ケアレスミスが多く、計算練習の量が相対的に少ないため、スピードが遅いことが課題といえる。	・算数的活動を重視し、算数的感覚、数学的な思考力、表現力を育成することが課題である。	・プレテスト・TBドリル等を利用して個人の学習状況を把握し、習熟に合わせた多様なプリント・教材を用意する。	・学期末には、一人一人の見取りを担当に伝える。
	数量や図形についての知識・理解	・既習事項や知識理解が正確である児童とそうでない児童と大きく分かれる。	・算数的活動(具体的操作・話し合い活動・説明活動・表現活動等)を多く取り入れ、個別の振り返り活動も大切にする。	言語活動の充実を図るための手立て ・問題解決に必要な情報を正確に取り出すことを意識づけるとともに、聞かれていることを正確に把握させるようにする。 ・集団で学習する場面と個別で取り混ぜる場面とを意図的に仕組んで、説明活動、表現活動を取り入れる。 ・ICT等の活用を図り、説明活動での利用を工夫する。	

<p>各教科における児童の実態</p> <p>理科学習を楽しむ態度は全ての学年に共通して見られ、何よりも学習を進める上での基礎ができていると言える。また、学習規律も、教員が押し付けるのではなく、児童自らが学習を進めやすいように構築してきている。課題は、学校外や理科以外に学習したことを広げたり、応用したりする力の不足である。また、基礎的な知識が意外に身に付いていない様子が気に掛かっている。</p>	<p>自己の授業改善の重点</p> <p>数年来、考える力と科学的な思考力の向上を重点としてきた。本校児童の実態から、この重点は継続したいと考えている。しかし、加えて基礎的な知識の定着を新たに重点とする。理科における基礎的な知識は、積み重なって学ぶことが少なく、また専科制の中で、繰り返し学ぶこともないため、長期的な知識になり得ていない面がある。学力調査等で、良好な成績の児童は、長期的な知識として定着していると捉えている。</p>
---	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能		具体的な授業改善策 (授業形態、習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第三学年	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度については申し分がない。	<p>・指導方法:1学期の学習では、生活科の延長のような観察教材が主で、科学的な見方の基本しか指導していなかった。2学期以降の実験教材の指導を通して、系統的に科学思考を育てていく必要がある。</p> <p>・評価方法:観察教材中心の学習では、児童の作成した作品に対する事後評価に偏重する課題があった。2学期以降、話し合いの評価等、形成的な評価を重点的に行う必要がある。</p>	<p>・基礎的な知識の習得を目指して、各観察、実験の前に、必ず教科書で方法や用語を確認させる。また、実験教材において、予想から考察までの学習の流れを確実に定着させ、科学的な思考に至る学習方法を確立する。</p> <p>言語活動の充実を図るための手だて</p> <p>・観察、実験を実施する前に、学級全体で検討する学習内容を、1週間に1回は設定する。そこで、教員は積極的に話し合いをコーディネートし、学習の充実に至る話し合いのモデルとなる。</p> <p>・各観察、実験の結果を記録する活動を重視する。理科学習において、何をどう記録すれば良いのか、定期的に点検したり紹介したりして、よりよい記録を身に付けさせる。</p>	<p>・「褒めるより認める」を実践し、児童の自発的な価値判断が育つように支援する。発声も、児童を教員側に誘導することがないように、穏やかで静か、ゆったりとした声かけに努める。</p> <p>・東京ベシックドリルを各学期末に学習させることで、習熟度を評価する。また、このような地道な学習活動をできる児童を評価し、育てていく。</p>
	科学的な思考・表現	科学的な思考にやや課題が見られる。科学的に考える方法を理解できていない。			
	観察・実験の技能	観察、実験の技能は、現段階で必要とされる技能が身に付いている。			
	自然事象についての知識・理解	自然事象についての知識・理解は、高い学習意欲にともなって、第3学年なりに付いてきている。継続して育てていきたい。			
第四学年	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度については申し分がない。	<p>・指導方法:高い学習意欲、学び合う学習集団の実態を重視して、次々に発展的な学習を導入してきた。しかし、これが個人差を明確にし、基礎的な知識の定着が十分ではない児童をつくってきた面があると反省する。</p> <p>・評価方法:良好な学習態度を基に、集団評価を重視してきた傾向があった。個人差が見られ始めたので、原点に戻り、個人評価を重視する必要がある。</p>	<p>・基礎的な知識の習得を目指して、各観察、実験の前に、必ず教科書で方法や用語を確認させる。また、実験教材において、予想から考察までの学習の流れを確実に定着させ、科学的な思考に至る学習方法を確立する。また、個人の発想を重視し、自由に発言できる雰囲気の中で言語活動の充実を図る。</p> <p>言語活動の充実を図るための手だて</p> <p>・観察、実験を実施する前に、学級全体で検討する学習内容を、1週間に1回は設定する。そこで、教員は積極的に話し合いをコーディネートし、学習の充実に至る話し合いのモデルとなる。</p> <p>・各観察、実験を行う前に、必ず児童個人の考え方を記述させる。また、個人の考え方を集団で検討し、その結果も記述させる。これを積み重ねることで、学習の深化につなげていく。</p>	<p>・「褒めるより認める」を実践し、児童の自発的な価値判断が育つように支援する。発声も、児童を教員側に誘導することがないように、穏やかで静か、ゆったりとした声かけに努める。</p> <p>・東京ベシックドリルを各学期末に学習させることで、習熟度を評価する。また、このような地道な学習活動をできる児童を評価し、育てていく。</p>
	科学的な思考・表現	科学的な思考については、個人差が明確になってきた。言語能力と関連している。			
	観察・実験の技能	観察、実験の技能に関しては、十分な技能が身に付いている。			
	自然事象についての知識・理解	自然事象についての知識・理解は、やや個人差が明確になりつつあるので、基礎的な知識を身に付けさせる指導の工夫を要する。			
第五学年	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度に関しては、総じて十分である。	<p>・指導方法:様々な課題を有し、児童個人外でも配慮する事項が多々あった実態を考慮し、学習意欲の向上のみを目指した指導が大きな割合を占めていた。考えをぶつけ合ったり、地道に基礎的な学習を習得したりするような指導法を取り入れていく必要がある。</p> <p>・評価方法:学習意欲の向上を目的とした評価が大きな割合を占めていた。今後、科学的な思考や基礎的な知識の定着を図る評価をすることが必要になる。</p>	<p>・毎学期末に1回程度、学習を振り返り、基礎的な知識を十分に身に付ける時間を設定する。</p> <p>・各観察、実験の方法や結果の共有について、集団検討や話し合いの場面を設定し、個人の考えを確実にもち、改善する経験をさせる。</p> <p>言語活動の充実を図るための手だて</p> <p>・各観察、実験の方法を確実に把握するために、口頭での説明後に教科書を読んで文字言語や図でも理解する場面を定期的に設定し、理解を深めることにつなげる。</p> <p>・話し合いの場面で、数名の児童が繰り返し考えを述べることで、必然的に全児童の考えを出さざるを得ない場面設定を行うことで、言語活動の充実及び自己有用感の向上をねらう。</p>	<p>・褒め方の改善を行う。「褒めるより認める」を取り入れ、児童の達成感を支援する褒め方を研究する。具体的には「すごい」「偉い。」といった教員の考えに誘導するような声かけを避け、言動を追認するような褒め方、あるいは児童の内面を推定、言語化するような深い声かけを研究して進めていく。</p>
	科学的な思考・表現	科学的な思考については明確に課題がある。基礎的な知識が身に付いていない、言語能力の不足が根底にある。			
	観察・実験の技能	観察、実験の技能は、ほぼ十分である。			
	自然事象についての知識・理解	自然事象についての知識・理解は、科学的思考の基になっているので、その不足が課題となる。			

第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度についてはおおむね十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法：これまで学び方を学ぶような、高学年にはふさわしくない指導を積み重ねてきた。ようやく第6学年レベルの学習を進めることができる実態に成長したので、今後、科学的思考力を高めるような指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期末に1回程度、学習を振り返り、基礎的な知識を十分に身に付ける時間を設定する。 ・各観察、実験の方法や結果の共有について、集団検討や話し合いの場面を設定し、個人の考えを確実にもち、改善する経験をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・褒め方の改善を行う。「褒めるより認める」を取り入れ、児童の達成感を支援する褒め方を研究する。具体的には「すごい。」「偉い。」といった教員の考えに誘導するような声かけを避け、言動を追認するような褒め方、あるいは児童の内面を推定、言語化するような深い声かけを研究して進めていく。
	科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考については、他学年と比較しても大きな課題がある。特に言語力の不足と大きく関連している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法：学習態度や意欲に関する評価が大きな割合を占め、それが授業を成立させていた。今後、学習内容の習得や、科学的思考の進展を目的とした評価を多く取り入れることで、中学校へつなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実を図るための手だて ・記述することを非常に不得手としているので、各観察、実験の前に、全児童に自己の考え方を記述させ、練り合わせる時間設定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字言語から学ぶ点に課題があるので、各観察、実験の方法を音瀬言語で確認後、各自が教科書を読んで、文字言語でも再確認する時間を定期的に設定する。 	
	観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の技能は、おおむね身に付いている。 			
	自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象についての知識・理解は、昨年度と比較して身に付いてきたと言えるが、まだ課題が残る。 			

<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験に対して、大変意欲的である。身近な動植物に関心を持ち、意欲的に世話をすることができる。 ・活動や観察の視点にそった自分なりの考えや気付きをもたせるようにしていく必要がある。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を体験だけで終わらず、体験を通して対象との関わりを深め、自分なりの考えをもたせたり、気付きの質を高めたりしていく指導の工夫を行う。 ・活動や体験を振り返り、気付いたことや感じたことを表現したり、伝え合ったりする力を高めていく指導の工夫を行う。
---	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
			具体的な授業改善策 (授業形態、習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第一学年	<p>関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についてのき付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物に関心を持ち、意欲的に世話をすることができた。継続的に栽培活動を行うことを通じて親しみが増し、自分が育てている植物の成長を喜ぶことができた。 ・活動や観察のめあてや視点を意識させること、自分なりの考えや気付きをもたせるようにしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域の実態に応じた身近な人々、社会や自然とのかかわりを学ばせる単元計画の工夫。 ・自分なりの考えをもたせたり、知的な気づきの質を高めたりする指導の工夫。 ・明確な評価基準もち、具体的な児童の姿を想定しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態や活動の仕方を工夫し、活動意欲を高め、身近な人々、社会や自然との積極的なかかわりの場を設定する。 ・観察の視点を明確にし、よい気付きを紹介していくことを通じて、気づきの質を高め、成長や変容に気づく目を養う。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験の振り返り活動を行い、気づいたことや感じたことを伝え合う。 ・自分なりの考えを深めたり、伝える相手のことを考えながら表現したりできるよう、学習のまとめとして発表会や新聞作成などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言、体験・観察活動、振り返り活動などの評価の観点を明確にし、児童の学習状況を適切に把握し、評価する。 ・作品や観察カードなどから、学習のねらいにつながる気付きを評価する。
第二学年	<p>関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についてのき付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な動植物に興味を持ち、意欲的に世話をすることができた。継続的に飼育・栽培を行うことで生き物への親しみが増し成長を喜ぶことができた。 ・疑問をもった時、図鑑を見たり詳しい人に尋ねたりして自主的に調べることができている。 ・観察の視点を明確にし、自分の考えや気付きをもたせるようにすること、個々の気付きを全体で共有できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲は高いが、気づきの目や表現の仕方については個人差が大きい。個別で声かけをする必要がある。 ・グループで活動するときには、友達に任せきりになってしまう児童もいるので、必ず個々の振り返りを入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も観察や体験活動の記録を継続的に行い、成長や変容に気づく目を養うと同時に、親しみや愛着を高めていく。 ・考えを深めたり、相手のことを考えながら表現したりできるよう、発表会や新聞作成の機会を取り入れる。 ・児童のよい気付きや観察の視点を紹介し、全体に広めていく。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきの質を高め、広げていくために、教師の言葉かけや支援を積極的に行う。 ・気付いたことや感じたことを伝え合うことができるよう、活動や体験の振り返りを積極的に行う。 ・発表会や新聞作成の機会を取り入れ、様々な表現方法の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言、体験・観察活動、振り返り活動などの評価の観点を明確にし、児童の学習状況を適切に把握し評価する。 ・作品や観察カード等から、学習のねらいにつながる気付きを評価する。 ・そのときの評価だけでなく、変容にも着目して児童の成長を認めていく。

<p>各教科における児童の実態</p> <p>全体的に音楽のよさや楽しさを感じて活動している。歌唱表現では自然で無理のない声で歌える児童が多い。聴いて感じ取ったことや歌詞をもとに、思いや意図をもって表現できる力を継続して指導する必要がある。</p>	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図をもたせるための指導の工夫。 ・課題解決の学習過程を取り入れる。
--	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策		
			具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)	
第一学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽に関わり、興味・関心をもっている。 ・思いをもって表現する力を育てる。 ・音程があいまい。聴奏の能力を育てる。 ・音色を手立てに最後まで聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・階名で模唱したり暗唱したりする活動の不足。 ・歌詞からイメージを広げ、表現につなげる指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真などの様々な視聴覚教材による音や映像を利用する。 ・上学年の声や演奏する音を聴かせて、音に対する目標をもたせる。 ・目標はシンプルにし、多くの活動を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能				
	鑑賞の能力				
第二学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽に関わり、興味・関心をもっている。 ・音楽経験を生活に生かせるようにする。 ・思いをもって表現する力を育てる。 ・人と合わせて演奏できる力を育てる。 ・音色を手立てに最後まで聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・階名で模唱したり暗唱したりする活動の不足。 ・歌詞からイメージを広げ、表現につなげる指導の工夫。 ・協同的な学びを取り入れた学習過程の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真などの様々な視聴覚教材による音や映像を利用する。 ・学習活動に協同的な学びを取り入れる。 ・目標はシンプルにし、多くの活動を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能				
	鑑賞の能力				
第三学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで音楽に関わり、音楽活動に意欲的に取り組んでいる。 ・根拠をもとに思いや意図をもって曲想にふさわしい表現ができるようにする。 ・音色に気を付けて表現することができる。 ・音楽を聴いて感じたことを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を工夫する手がかりを音楽の中から探そうとする態度を育てる。 ・音楽との出会せ方の工夫。 ・学びの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の学習過程を通して、学びの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能				
	鑑賞の能力				

第四学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで音楽に関わり、音楽活動に意欲的に取り組んでいる。 ・根拠をもとに思いや意図をもって曲想にふさわしい表現ができるようにする。 ・思いが表現の技能として定着できるように指導の継続を図る。 ・楽曲の構造を理解して聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を工夫する手がかりを音楽の中から探そうとする態度を育て、習慣化させる。 ・音楽との出会せ方の工夫。 ・学びの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の学習過程を通して、学びの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能			<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図るための手立て ・対話を通して、一人一人の思考・判断・表現力を育む。 ・ことばで自分の思いや意図を表現できるようにする。 	
	鑑賞の能力				
第五学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的に音楽と関われるよう指導を継続する。 ・自分の思いや意図をもって表現できるよう指導を継続する。 ・音楽表現の技能の定着には個人差が見受けられる。 ・音楽を聴き深める力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせる。 ・学習過程の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を感受して、思いや意図をもつ(思考・判断・表現)段階が充実するように十分な活動の時間を設ける。 ・協働的な学びを取り入れる。 ・自らの学習活動を振り返る時間の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能			<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図るための手立て ・対話を通して、一人一人の思考・判断・表現力を育む。 ・相手意識をもって、ことばで自分の思いや意図を表現できるようにする。 	
	鑑賞の能力				
第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的に音楽と関われるよう指導を継続する。 ・自分の思いや意図をもって表現できるよう指導を継続する。 ・友達と音を合わせて表現する力を継続して育てる。 ・音楽を聴き深める力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせる。 ・学習過程の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を感受して、思いや意図をもつ(思考・判断・表現)段階が充実するように十分な活動の時間を設ける。 ・協働的な学びを取り入れる。 ・自らの学習活動を振り返る時間の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、明確な指導の目標を設定し、指導と一体となる評価を行う。 ・観点別に評価規準を設定して、目標の実現状況を、活動している子どもの姿から見取れるようにする。
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能			<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図るための手立て ・対話を通して、一人一人の思考・判断・表現力を育む。 ・相手意識をもって、ことばで自分の思いや意図を表現できるようにする。 	
	鑑賞の能力				

各教科における児童の実態 ・どの学年も図工が好きのようで一生懸命取り組んでいる。 ・丁寧という点では少し努力を必要とする子がいる	自己の授業改善の重点 ・子どもたちの興味を引く教材選びをする。 ・丁寧に自分で満足できる仕上がりになるよう指導する。
--	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
	関心・意欲・態度	発想や構想の能力		具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第一学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は比較的高く課題に対して黙々と一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそろそろようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみたい、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。 ・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。			
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。			
	鑑賞の能力				
第二学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそろそろようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみたい、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。 ・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。			
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。			
	鑑賞の能力	・話をしっかり聞くことが苦手ですがすぐに自分の思いで取り組もうとする子がいる。			
第三学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそろそろようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみたい、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。 ・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。			
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。			
	鑑賞の能力				

第四学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと。制作過程でできていることを全体で紹介することで自信を持たせる。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみて、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	言語活動の充実を図るための手立て ・自分のイメージしたことを言葉で表したり、文字で書いたりして自分のやりたいこと、描きたいことをはっきりさせる	・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。 ・自分に自信が持てず取りかかりから意欲を持ってない子がいる。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと自信を持って取り組めるようにする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。		
	鑑賞の能力	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。技術的にやや幼い傾向が見られる子がいる。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・新しい題材を扱う際は、全制作過程を説明し見通しを持たせる必要がある。また、段階を経た指導をし、授業の中でのポイントもしっかり押さえるよに心がけなければならない。 ・子どもたちが興味を持てる題材選びをする。 ・作業手順を正確に理解し、手順通りに進め、その上で創造性・独創性を発揮させるようにする。		
	・不十分ではあるが集中力が持続するようになってきた。 ・ひらめきやアイデアはいいものを持っているが、説明など話をしっかりと聞くことができないので、作品に生かされない。 ・5年生時と比べると話の聞き方や作業の進め方はよくなっている。	・授業実施の前に、新しい題材については、教師が子どもと同じ制作過程をたどってみる。そうすることにより、児童への説明もサポートも的確に行えると考える。 ・児童の創作意欲を引き出す題材の準備をする。(意) ・制作過程の確実な理解の上に立った、発想、構想の工夫を引き出す。(表) ・一度に多くを要求せず、少しずつ、かつ、ゆったりと作品の制作を進めていく。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。		
第五学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。技術的にやや幼い傾向が見られる子がいる。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと自信を持って取り組めるようにする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみて、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	言語活動の充実を図るための手立て ・自分や友達の作品について感じたことを言語化する場を大事にする。	・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。	・新しい題材を扱う際は、全制作過程を説明し見通しを持たせる必要がある。また、段階を経た指導をし、授業の中でのポイントもしっかり押さえるよに心がけなければならない。 ・子どもたちが興味を持てる題材選びをする。 ・作業手順を正確に理解し、手順通りに進め、その上で創造性・独創性を発揮させるようにする。		
	鑑賞の能力	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。技術的にやや幼い傾向が見られる子がいる。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと自信を持って取り組めるようにする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。		
	・不十分ではあるが集中力が持続するようになってきた。 ・ひらめきやアイデアはいいものを持っているが、説明など話をしっかりと聞くことができないので、作品に生かされない。 ・5年生時と比べると話の聞き方や作業の進め方はよくなっている。	・授業実施の前に、新しい題材については、教師が子どもと同じ制作過程をたどってみる。そうすることにより、児童への説明もサポートも的確に行えると考える。 ・児童の創作意欲を引き出す題材の準備をする。(意) ・制作過程の確実な理解の上に立った、発想、構想の工夫を引き出す。(表) ・一度に多くを要求せず、少しずつ、かつ、ゆったりと作品の制作を進めていく。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。		
第六学年	関心・意欲・態度	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。技術的にやや幼い傾向が見られる子がいる。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと自信を持って取り組めるようにする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	・子どもたちのいいところを紹介し、さらに意欲が高まるようにする。 ・道具の使い方については、複数の教材を通して系統的に指導に当たっていく。 ・子どもたちがやってみて、作ってみたいと思える教材を提示する。 ・導入時の説明を的確にし、学習課題をしっかりとつかめるようにする。そのため、教師の効果的な実演や、興味の持てる具体物を示す。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。
	発想や構想の能力	・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。	言語活動の充実を図るための手立て ・自分や友達の作品について感じたことを言語化する場を大事にする。	・課題解決の内容と方法を小1～中3まで9年間の年間指導計画の中に盛り込む。 ・自他の作品への評価を言語化させ、互いに作品への思いを交流できる場を設定する。
	創造的な技能	・他者の作品を見たときに、素直に作品の良さを認めることが出来る。	・新しい題材を扱う際は、全制作過程を説明し見通しを持たせる必要がある。また、段階を経た指導をし、授業の中でのポイントもしっかり押さえるよに心がけなければならない。 ・子どもたちが興味を持てる題材選びをする。 ・作業手順を正確に理解し、手順通りに進め、その上で創造性・独創性を発揮させるようにする。		
	鑑賞の能力	・学習意欲は高く課題に対して一生懸命取り組む子が多い。 ・作業の進度の速い、遅いがあるので、限られた時間のなかでどう自分の納得の出来る作品を作り上げるかが課題である。技術的にやや幼い傾向が見られる子がいる。 ・ハサミやノリなどの道具の使い方については系統的に指導していく必要がある。	・一人ひとりの良さを見つけ学級のなかでその良さを広めていくこと。 ・一人ひとりの仕事の進み具合を確認し、出来るだけそうようにすること。 ・一人ひとりが意欲的に取り組めるよう導入時の意欲付けをしっかりと自信を持って取り組めるようにする。 ・道具の使い方を年間の教材を通して上手に使いこなせるようにする。 ・ゴミにならない教材えらび、作品えらびをすること。		
	・不十分ではあるが集中力が持続するようになってきた。 ・ひらめきやアイデアはいいものを持っているが、説明など話をしっかりと聞くことができないので、作品に生かされない。 ・5年生時と比べると話の聞き方や作業の進め方はよくなっている。	・授業実施の前に、新しい題材については、教師が子どもと同じ制作過程をたどってみる。そうすることにより、児童への説明もサポートも的確に行えると考える。 ・児童の創作意欲を引き出す題材の準備をする。(意) ・制作過程の確実な理解の上に立った、発想、構想の工夫を引き出す。(表) ・一度に多くを要求せず、少しずつ、かつ、ゆったりと作品の制作を進めていく。	次の3点に留意し、評価する ① 制作中の児童への語りかけにより、作品に込められた、児童の「思い」をつかむ。 ② 自分の作品についての考えを書かせる。 ③ 作品の仕上がりを見る。 ・9年間を見通した年間計画は、ほぼ完成した。各題材のねらい、「個人の記録表」の評価項目を明確に意識して、それらの実現を授業の中で検証していく。		

<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習や裁縫実習など、意欲的に取り組むことができている。 ・準備から片付けまでの作業に見通しをもって計画的に活動していくことがこれからの課題である。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習と知識理解の学習を結び付け、思考する場面や話し合う場面を充実させていく。 ・中学校との指導交流の在り方や、効果的な取り組みについてこれからも検討しながら授業を行っていく。 ・小学校5年生から中学校3年生までの指導の流れを、より系統性のあるものへと変えていき、5年間の成果として高めていく。
---	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題		指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
				具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第五学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・どの単元の学習にも関心意欲をもって取り組める児童が多い。 ・調理実習では、準備から片付けまで協力して取り組んでいるが、時間がかかりすぎるところが課題である。 ・縫い方の基本的な技能は身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の中でT2として中学校の家庭科教員にも入ってもらい、充実した指導が行えた。 ・子供たちが互いの取り組みを理解し合うような場面がなかなか設定できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の学習と知識・理解を深める学習を両立させ、学びのある授業を展開していく。 ・実習の中では、自分の工夫したことなども一人一人がもてるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教員だけでなく、子供たちが自己評価や相互評価をする機会をつくる。 ・実習の中で自分が工夫したことや、気を付けて行ったこと等をお互いに伝え合う活動を行う。
	生活を創意工夫する能力			<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図るための手立て ・実習の中で自分が工夫したことや、気を付けて行ったこと等をお互いに伝え合う活動を行う。 	
	生活の技能				
	家庭生活についての知識・理解				
第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や調理などの実習への意欲がとても高い。 ・知識や理解に関する学習では集中力が続かない児童が見られる。 ・学習したことを日常の生活で生かそうとする機会や姿勢に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解に関する学習では、日常生活との関連づけを意識した指導を工夫する。また、講義形式だけでなく、視聴覚機器や教材を用いて意欲を喚起できるように工夫する。 ・毎時の活動を適切に見取り、評価や次時の活動に取り入れられるように指導にあたるのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習においては特定の児童ばかりに活動が偏らないように、事前に役割を細かく設定し、一人一人が活動に参加できるように指導を行っていく。 ・視聴覚教材を積極的に活用し、学習への理解が深まるように授業を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の学習を振り返るワークシートの記入を行い、評価に生かしていく。 ・個々の児童の学習への取り組みを適切に見取って評価を行い、それを次時の学習計画へと生かしていく。 ・料理や作品への相互評価を行うと共に、学習活動への関心や意欲を喚起する。
	生活を創意工夫する能力			<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図るための手立て ・学習を生かした取り組みについて発表させるなど、日常生活について交流する機会を多くつくる。 ・実習については個々の児童の気付きや発見を随時発信できるような学習活動の場を作っていく。 	
	生活の技能				
	家庭生活についての知識・理解				

<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として意欲的に取り組む児童が多く、アドバイスをし合ったり、準備や片付けを進んで行ったりすることができる。一方で、苦手意識をもっている児童も見られ、活動量に差が見られる。 ・日常的な運動への取り組みが十分でないために、技能の向上範囲が限られてしまう。また、基礎的な体力や基本的な体の使い方に課題がある。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたためあての設定や場の工夫を行い、どの児童も運動の楽しさを味わえるようにするとともに、運動量の確保を図っていく。また、日常的に運動に親しむ機会を意図的に設けていく。 ・個で活動するだけでなく、ペアやグループでの活動など、授業形態の工夫をしていく。また、技能のポイントを明確に提示し、効果的にアドバイスをし合えるようにしていく。
--	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
			具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第一学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる児童が多い。友だちと協力して学習を進めたり、応援したりすることができる。 <p>運動や健康・安全についての思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の少ない児童や苦手意識の強い児童の動きを高めていくことが課題である。 <p>運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な領域の運動への関心を広げ、日常化を図ること。 ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にし、評価基準にそった具体的な児童の姿を想定しておくこと。 <p>健康・安全についての知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の運動経験や興味関心の違いをふまえ、個に応じた指導の工夫。 ・児童相互の見合う力、自己評価能力を高めていく指導の工夫。 ・様々な領域の運動への関心を広げ、日常化を図ること。 ・身につけさせたい力と各時間の指導の重点を明確にし、評価基準にそった具体的な児童の姿を想定しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたためあてをもち意欲的に活動できるよう、単元計画、場の設定の仕方や段階に応じた指導を工夫する。 ・動きの質を高めていくことができるよう、技能ポイントを明確に提示し、賞賛や助言などの教師の積極的な働きかけを適宜行う。 ・協力して取り組む場、学び合える場を意図的に設定していく。 言語活動の充実を図るための手立て ・ペアでのアドバイス、グループごとの振り返り、全体での振り返りなど、かかわり合いの場面を意図的に設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを大切にし、自己の伸びや課題への気付きから児童の学びを確認し、関心・意欲・態度や思考・判断の評価資料とする。 ・技能ポイントを明確にし、個々の学習状況を把握する。 ・評価をもとに個別指導の充実を図る。
第二学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる児童が多いが、運動に苦手意識を感じている子もいる。 <p>運動や健康・安全についての思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きに目を向け、よさに気づき、助言することもできる。 <p>運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の少ない児童や、苦手意識の強い児童も、学習を進めていく中で動きが高まってきている。 <p>健康・安全についての知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数なので、それぞれの運動に合わせて効果的なグループの編成が難しい。 ・運動の仕方やルールを把握するのに時間を要する児童がいる。 ・運動技能の習得に個人差が大きいので、全体指導と個別指導のバランスを考えた授業の組み立てが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで取り組める様に単元計画、場の設定の仕方や段階に応じた指導を工夫する。活動に応じてグループやメンバー構成を十分検討する。 ・動きの質を高めていけるよう、技能のポイントを全体及び個々に明確に提示し、賞賛や助言等の積極的な働きかけを適宜行う。 言語活動の充実を図るための手立て ・個々のためカードや振り返りカードを活用する。 ・ペアでのアドバイス、グループごとの振り返り、全体での振り返り等、関わり合いの場面を意図的に設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを大切にし、自己の伸びや課題への気付きから児童の学びを確認し、関心・意欲・態度や思考・判断の評価資料とする。 ・技能ポイントを明確にし、個々の学習状況を把握する。 ・評価をもとに、個別指導の充実を図る。
第三学年	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで準備・片付けを行い、安全に取り組んでいる。 <p>運動や健康・安全についての思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもとに、動きを修正できる児童が多い。 ・体育の授業内での運動は比較的できるが、日常的に運動に慣れ親しんでいないため、向上する範囲が限られている。 <p>運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動になりがちなので、互いにアドバイスをし合う指導を行う。 ・体育という限られた時間をこえて取り組むことのできる、普段から運動に親しむための指導を行う。 <p>健康・安全についての知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動になりがちなので、互いにアドバイスをし合う指導を行う。 ・体育という限られた時間をこえて取り組むことのできる、普段から運動に親しむための指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能向上のためのアドバイスをし合う環境づくりを行う。 ・最善の方法を試行錯誤して考えていく指導を行う。 ・日常的に運動に親しめるように、休み時間にも取り組める指導を行う。 言語活動の充実を図るための手立て ・技能ポイントを紙に書き合い、共有する。 ・児童が学級で行うことのできる運動を提案させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の始めから終わりまで自分の課題に応じたためあてを立て、ふり返ることができる学習カードを用いて授業を行う。 ・ビデオを使って、客観的に見ることができない自分の動きを確認させ、技能の向上を図る。

第四学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関しての意欲が高く、準備や片付けなども含めて、積極的に学習に臨むことができる。 ・技能の習得に向け、自分なりに工夫したり、友達の動きを真似たり、思考を伴った活動を苦手としている。 ・身体を上手に使った動きや、各運動のポイントの整理を不得意としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各個人の運動能力に合わせた場の設定を適切に行っていく。 ・運動量を確保しながら、指導形態の工夫を行う。 ・記録を保管し、可能なものについては継続的に取り組み、自身の伸びを実感できるような評価の仕方を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、ペア、グループなどの学習形態を、指導内容ごとに工夫して取り入れていく。 ・技能の習得を図る場面では、個に応じた場の設定を数多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の記録がとれるようなカードを作成し、その内容を確認しながら児童の様子を適切に評価していく。 ・評価を継続的に行い、単元を通して個に応じた評価ができるようにしていく。
	運動や健康・安全についての思考・判断				
第五学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら楽しく運動をすることができる。 ・競争心や向上心のような気持ちをもう少し育てたい。 ・体力テストの結果からも、運動の基礎的な体力をつけていく必要があることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子だけを見ていると、思考・判断の様子など評価が難しい場面がある。 ・楽しく体力を高めていけるような簡単な活動を行っていく必要性を感じる。 ・人数が少ない中でのチームスポーツの活動を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録を計る時などは、学習前と後で自分の記録がどれだけ伸びたかわかるようにする。 ・授業の中で、体力を高める短時間の運動やゲームを継続的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シート等を活用して、自己の振り返りをさせ、できるようになったことや工夫したことを適切に評価できるようにする。 ・児童が相互評価をする場面を設定する。
	運動や健康・安全についての思考・判断				
第六学年	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動に取り組む児童と苦手な児童との活動量の差が大きい。 ・相手を意識して気遣い合うなど協力して活動する場面が多く見られる。 ・投げたり跳んだりするような基本的な体の使い方が得意でない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の運動量を増やすために個別に指導の重点を考え、学習を工夫していく。 ・児童の実態を踏まえて、基本的な動作や技能の向上が図れるように活動を工夫する。 ・技能の向上を到達度として見取るためにも毎時の評価を適切に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動場面と個別での活動場面とで授業の組み立てを考え、個や集団の実態に応じた活動を行っていく。 ・集団での活動においては個々の持ち味を生かしたり、協力したりしながら活動をできるように指導を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動毎の振り返りカードを作成し、自己評価や相互評価を行う。 ・活動場面の見取りや振り返りカードの確認を通して、個々の児童の成長や課題を適切に把握し、評価を行う。 ・前時の評価をもとにして、本時の評価を行うなど、学習の到達度を包括的に評価していく。
	数学的な考え方				
				言語活動の充実を図るための手立て	
				<ul style="list-style-type: none"> ・自己の振り返りの中で、自分が工夫したことや、努力してできるようになったことをまとめる活動を取り入れる。 ・チームスポーツでは、運動時間の確保と共に、友達とプレーについて話し合う時間を確保し、お互いの考えを交流させる。 	
				言語活動の充実を図るための手立て	
				<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動においては戦術や仲間へのアドバイスなどを交流する場面を設定し、考えたり工夫したりし合えるように手立てを工夫する。 ・学習への取り組みや活動の中で工夫したことを発表をさせることで、学習内容を更に深められるような手立てを工夫する。 	

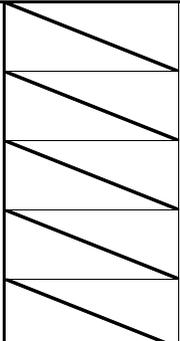
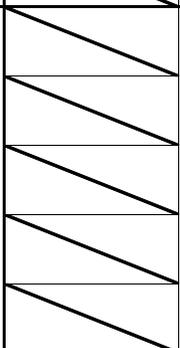
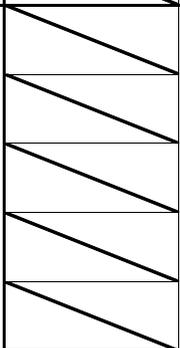
<p>各教科における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々に課題を設定し、設定した課題へ向かって調べたり深めたりすることができる。 ・まとめる活動では、その内容やまとめるまでに要する時間に個人差が見られる。 	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に関する話し合いの場の工夫。 ・グループでの活動を増やし、協力して深めたり、まとめたりできる活動の場の工夫。
--	--

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策		
			具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく問題を解決する資質や能力 ・学び方やものの考え方 ・主体的、創造的、協同的に取り組む態度 ・自己の生き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身で授業に取り組むことが多い。 ・考える前に聞くことがとても多い。 ・教わったことに固執することがあり、その枠からはみ出すことをしない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや気付いたことなどをメモして活かす指導を行う。 ・様々な選択肢から自分で考えて最善のものを選び出す指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で問題点を挙げ、調べていくという能動的な指導を行う。 ・学んだことを実行、反省、修正して考える指導を行う。 ・反対意見の場合、代案を出す指導を行う。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挙げた問題についてどの程度理解することができたかを話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに挙げた問題について、自分なりの見解を出し、結論を出すことができたか振り返りを行わせる。 ・主体性をもって取り組めたかという視点で具体的な場面を取り上げ、評価をする。
第四学年	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく問題を解決する資質や能力 ・学び方やものの考え方 ・主体的、創造的、協同的に取り組む態度 ・自己の生き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定し、自力で解決したり、友達と協力して取り組んだりすることに意欲的に取り組むことができる。 ・適切な資料を選んだり、書かれていることの中から理解したことをまとめたりする力は十分ではない。 ・学習したことを振り返り、どうしていきたいか等の考えを求められることを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に即した課題を設定できるように指導していく。 ・資料の選び方やまとめかたについて個別に指導しているが、対応に時間を要する。 ・まとめたものを掲示するなどして、学習したことを常に振り返られるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味や関心をもって学習に取り組めるように、単元導入時に、児童の願いや疑問等を十分に吸い上げて学習を展開していく。 ・資料選びやまとめ方のポイントを指導する時間を十分取ると同時に、いつでも確認できるようにワークシートを作成していく。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ方の工夫を促し、表現の仕方について学べる機会を多く作っていく。 ・課題解決型、体験型どちらの学習でも、振り返りを行い、学習を通して感じたことや考えたことを交流する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品や単元全体の評価に関して、自己評価や相互評価を取り入れていく。 ・ワークシートや学習の記録をファイリングし、評価に生かしていく。また、児童自身にそれを振り返らせ、自分の変容等の姿に気付かせていく。
第五学年	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく問題を解決する資質や能力 ・学び方やものの考え方 ・主体的、創造的、協同的に取り組む態度 ・自己の生き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定した課題に対して、意欲的に調べようとする姿勢が見受けられる。 ・調べたことをまとめるまでに、時間がかかりすぎることがある。 ・調べたことを発表する際の伝え方が単調なことが多い。 ・調べたことをどうまとめていいかわからずに困っていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをまとめるまでに、時間がかかりすぎることがあるので、見直しをもって取り組めるようにしたい。 ・調べたことを発表する際の伝え方を、さらに工夫がもてるようにしたい。 ・調べ活動では、調べたことをただ写しているということなるべく少なくさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような課題を設定し、どういった方法で調べ、どうまとめるかというプロセスの学習機会を設定し慣れさせていくことで、学習全への見直しをもてるようにする。 ・発表の際に、自分が伝えたいことは何かしっかり考えて取りまとめる。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたことや学んだことに対しての自分の意見や考えをしっかりとせ発信する機会を増やしていく。 ・その中で、発表の際の伝え方の工夫についても指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習で作った作品に関しては、自己評価や相互評価を取り入れていく。 ・調べたことをまとめるまでの活動の中で深まった考えや意見を書かせ、適切に評価できるようにする。

第六学年	よりよく問題を解決する資質や能力	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習では、調べることは好きであるが、まとめることが苦手な児童が多い。 ・書籍をもとに調べる際には、必要な情報を取捨選択するのに時間が掛かる。 ・インターネットを用いた学習では、検索のキーワードを考えるのに時間が掛かり、ローマ字入力が出来なかったりする。 ・バードカービングなど、作業を伴う活動には集中して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの活動においては、まとめかたを丁寧に指導し、見通しをもって学習を進められるように留意する。 ・まとめの発表の際は、できるだけ口頭発表の機会を多く取り、発表へ慣れさせていく。 ・活動の段階毎に適切に進捗状況を見取り、個の段階に応じた指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定、学習への見通し、学習の進め方、まとめかたと学習の段階を明確にを設定し、児童が見通しをもって活動に取り組むことができるように改善を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことや製作したものは、自己評価や相互評価を行う。 ・学習の各段階において、個々の活動や状況を適切に見取り、評価を行っていく。 ・発表や話し合い活動においては活動の取り組みや発言の内容を適切に見取り、評価を行っていく。
	学び方やものの考え方				
	主体的、創造的、協同的に取り組む態度			<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことを自らの言葉で表せるように個別に指導し、促していく。 ・まとめたことを自らの言葉で発信する場を設定することで、言語能力の向上を図る。 	
	自己の生き方				

<p>各教科における児童の実態</p> <p>資料やテーマについて興味をもって真剣に考えようとする姿が見られるが、資料読み取りに読解力が影響したり、自分の考えをもっても文章化したり言語化したりすることに自信がない児童が見られる。考えたこと、学んだことを日常生活に活かしていこうという気持ちを高めることが課題としてあげられる。</p>	<p>自己の授業改善の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを達成でき、児童の心に響く題材の選定と提示の仕方を工夫する。 ・自分の考えを整理し、伝え合いの手がかりとなるよう、ワークシート等を効果的に活用する。 ・自分自身を振り返る時間を十分に確保し、自分の考えを互いに伝え合い議論する活動を保障する。 ・考えたこと、話し合い語り合ったことを、生活の中で活かしていく気持ちになれるような終末のもち方を工夫する。
--	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策				
			具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)			
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとした価値を児童の心にしっかり受け止めさせ自覚を深めていくこと、日常生活の中でも学んだことを生かしていこうとする気持ちを高めていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の自覚を深めるための多様な学習の仕方の工夫。 ・道徳的価値についてより深く考えることができるような終末のまとめ方の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の取り上げ方(児童の実態に応じたタイムリーな題材や児童の日常生活と関連づけた題材など)を工夫したり、児童の心に響く題材の選定、提示の仕方を工夫したりする。 ・ねらいとした価値を深めていくことができるよう、自分自身の振り返りの時間を十分に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方についての自覚を深め、よりよく生きようとする思いがもてるよう、書く活動を取り入れる。 ・児童のワークシートなどから、考え方の変化や変容を読み取り、適切な支援を行う。 			
			<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観に触れ、自分の考えを深めていくことができるよう、ペアやグループでの話し合いを取り入れ、考えを交流し合う。 				
			<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業への関心・意欲がとて高く、毎回楽しみにしている。 ・授業中じっくりと考えて、自分の考えをもち、話し合ったり自己について振り返ったりすることはできているが、生活の中で生かしていくことがまだまだである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・題材によっては一人で考えるのが難しい児童がいる。 ・発言やワークシートだけでは、心の変容が分かりづらい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の選定(児童の実態に応じたタイムリーな題材、児童の日常生活と関連付けた題材、児童の心に響く題材等)や提示の仕方を工夫する。 ・授業で考えたことを自身の生活に生かしてけるよう、振り返りの時間を十分に確保し、生活の中でも時折振り返っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言やワークシート等から、ねらいにつながる気付きを評価する。 ・発言やワークシートだけでなく、児童の表情や友達の意見を聞いている様子等からも、児童の考えや変容を読み取っていく。また、必要な支援をして言葉で表現する練習もしていく。 ・そのときの評価だけでなく、他教科・他領域や日常の中でも変容に着目して児童の成長を認めていく。
			<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方についての自覚を深め、よりよく生きようとする思いがもてるよう、また記録が残るように書く活動を取り入れる。 ・自分の考えをもとに、書いたり話し合ったりする等の表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫する。 				
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について学級で話し合う時、正しい判断をする考えはできているが、実際の生活態度と一致していない部分がある。 ・扱った内容を定期的に話すことで少しずつ価値が浸透しているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合ったタイミングで、身に付けさせたいねらいに沿った内容で効果的に指導する。 ・一回の指導で終わりではなく、価値が分かるように、指導を積みかさで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面で考えさせ、当事者の視点で物事を考えることができるようにする。 ・自分がとらえた価値を行動にうつすことができるように工夫して生活に結び付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に振り返りを行う。道徳的価値で、もう一度考えさせる必要があるものは、取り上げて指導していく。 ・児童の変容をとらえたことを認め、価値付けの積み重ねを日々していく。 			
			<p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面で、自分の経験を共有し、全体に広める活動を行う。 ・生活の中でできたことは、定着するようお互い声をかけさせる。 				

<p>第四学年</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・資料やテーマについて真剣に考えようとする姿が見られる。 ・資料からの読み取りの部分では、読解力等の国語力が影響し、個人差が大きい。 ・授業の中で扱った内容について、日常の自分の生活に生かしていこうとする意識が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を考慮しながら、授業で扱うテーマや資料の精選を十分行っていく必要がある。 ・日常生活の中で、どのように価値付けを行っていくのか、計画を立てながら指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を指導に生かして題材の選定を行うと共に、読解に終始することがないような活動の流れを工夫していく。 ・自分の生活に生かしていけるように、朝の会や日常の指導場面でも価値付けを意識的に行っていく。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方にふれられるように、ペアやグループで考えを伝え合う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して考えたこと等を書く活動を取り入れ、自己の生き方に関して思いを深めていけるようにする。 ・ワークシートや発言等から、児童の変容を見とり、適切な支援を行っていく。
<p>第五学年</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、取り上げる資料に対して興味をもって読んでいる。 ・身近なテーマの教材や、お互いの意見がはっきりとわかるような教材の方が、より意見が活発化する。 ・自分の考えを文章化することや、言語化することに自信のない児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをはっきりとまとめるためにワークシートの活用を工夫させていく必要がある。 ・児童が自ら考えたいくように学習展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを達成するための教材をしっかりと選定する。 ・教師対児童の形態だけでなく、児童間で活動する機会をもち、主体的に取り組むための支援を行う。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えがしっかりともてるよう個別にも声かけを行う。 ・それぞれの考えを交流させる中で、自分の考えを伝え合う力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考えを交流させ、意見交換をすることで、もう一度自分の考え方を振り返られるようにする。 ・授業の中での話し合いの様子をしっかりと観察する。 ・話し合いの観察に加え、ワークシートを活用することで、考えの深まり方や変容について適切に評価できるようにする。
<p>第六学年</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・資料や題材に興味をもって取り組むことができる。 ・提示した資料に対して考え、意見をもつことができるが、意見を発表したり、友達の意見の良さや違いをもとに考えることが苦手である。 ・自分なりの意見をもっているも友達の前で発表することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理し、発言できるように、必要に応じてワークシートなどを効果的に活用していくことが課題である。 ・一人一人が考えをもち、深められるように学習の展開を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や関心に応じた資料や教材を選び、活動を深められるように工夫する。 ・児童相互の活動により考えが深まるような学習の場の工夫を行う。 <p>言語活動の充実を図るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の考えを見取り、自らの考えや意見に自信が持てるように適切な声掛けを行う。 ・個々の考えを発信させ、考えを交流する中で、話し合い活動の面白さを味わうことができるように交通整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返りをする中で、自己評価や相互評価を行い、自らの成長を感じられるようにする。 ・ワークシートや発言を適切に見取り、個々の考えや学習を通しての深まりを適切に評価していく。 ・学習活動を価値づけるために、個々の発言や良かったところを取り上げ、褒める。

各教科における児童の実態 ・外国語活動に対する関心が高く、意欲的に取り組むことができる。 ・英語での質問の意味は理解できて、応えることに抵抗のある児童が多い。	自己の授業改善の重点 ・外国語活動において学習したことを日常でも生かせるように働きかけていくこと。 ・学習内容に継続性をもたせると共に、児童が見通しをもって学習に取り組めるように指導計画をしっかりと立てること。
---	---

学年	観点別に見た児童の実態と課題	指導方法及び評価方法の課題	指導の改善策	
			具体的な授業改善策 (授業形態・習得・活用・探究させるための手立て等)	評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法における改善策)
第五学年	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・少人数なため、コミュニケーションを取る相手が限られた人にならないよう場面を設定する必要がある。 ・語彙の習得が目的ではなく、ゲームや活動を通して語彙を身に付けていく指導の実践。	・その単元で学習する表現やフレーズに慣れるために、ゲームや子供同士の活動を充実させる。 ・身に付いた表現やフレーズを使って、友達と英語でコミュニケーションを図る活動につなげていく。 言語活動の充実を図るための手立て ・使えるようになった表現をもとにインタビューや対話形式のコミュニケーション活動を行うようにする。	・反復練習、ペアでの活動、全体での活動と、段階を分けて取り組む様子を見て支援するよう心がける。 ・単元ごと等に活動内容を振り返り自己評価をする機会を設定する。
	外国語への慣れ親しみ			
	言語や文化に関する気付き			
第六学年	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・外国語活動への苦手意識が少なく、一生懸命に活動に取り組むことが出来る。 ・コミュニケーション活動では、やや消極的な児童も見られるが、頑張っている活動することができる。 ・全体的に聞くことは得意だが、発音することに抵抗があったり、苦手意識をもっている児童がいる。	・単に楽しいだけではなく、学習したことの定着を促すような活動の場を工夫していく。 ・外国語活動で学んだ言葉や表現を日常でも取り入れ、定着を促していく。 言語活動の充実を図るための手立て ・簡単な自己紹介や学習内容を活用した簡単な質問や応答を行っていく。	・各活動において個々のつまずきや取り組みを適切に見取り、個に応じた指導や声掛けを行う。 ・活動に対する振り返りの時間を取り、自己評価や相互評価を行っていく。
	外国語への慣れ親しみ			
	言語や文化に関する気付き			